

学 習 日 誌

1月 30日 (金)	講 師	東海大学教授 助川幸逸郎先生
出席者数 86名	記 録 者	7年 3班 中川 清美
講 座 名	公開講座 江戸時代の版元『蔦重』を知る	
プログラム担当者	歴史グループ2 (門田 高士さん)・東地区文化センター	
時 間・場 所	13:30 ~15:30 (途中休憩 10分含む) 第1集会室にて	

【学習内容】

1. 蔦屋重三郎の生きた時代 (令和7年NHK大河ドラマべらぼう主人公)

人口増加と経済の資本主義化→階級流動性が生まれる→識字率が向上→庶民文化が質・量ともに発展
この流れに乗った



2. 蔦屋重三郎の生きた時代

江戸時代の人口増大と資本主義化
都市の需要と農村からの供給活性化
封建制度体制での商業資本主義の発展
により大衆文化が開花

3. 蔦屋重三郎に学ぶ成功術

あけられそうな処に穴をこじ開けて
そこを拡大

安定した収入源になってくれる本を探す

歌麿、清長の美人画等

吉原生まれ吉原育ち流行に敏感、機が熟さないうちは勝負しない、相手の得意フィールドでは戦わない

カッコにかまわずジャイアントキリング、相手の失敗に乗じてうばうハイエナ作戦

遊びの延長が仕事、縁を切らない

立ちどまらない (新ジャンルに挑戦を続ける／新人発掘につとめる)

失敗にめげない (お上に叱られても事業を放りださない)

4. 蔦屋重三郎はいかに天才をみいだしたか

歌麿の場合：狂歌絵本を手がける、美人大首絵の様式を切り開く

写楽の場合：大判雲母摺の大首絵という豪華な役者絵を手がける

馬琴の場合：読本ブームの火付け役、黄表紙、俳書等多様な作家

【感想】一般参加者 13 名 (86 名中) と時流に乗った快活な人気の講座でした
当時の庶民文化を学習する良い機会でした